

平成 2 7 年度 学校評価実施報告書

学校番号 3 2 学校名 千葉県立船橋古和釜高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	①②アクティブスクール部を中心として、大学生による学習サポートボランティアを週 2 日実施した。地域の施設や祭のボランティア活動を推進し、参加生徒数が増加した。 地域と連携したインターンシップを実施した。 ③昨年度に引き続き、出身中学校別メッセージのポスターを作成し、中学校訪問時に持参し中学校から高評価を得ることができた。 ④HP の更新回数が 1 2 0 回に増え、アクセス数が 3 1 0 0 0 回を超え、内容も充実した。 地域には、保護者会会報を年 3 回、作成と同時に回覧した。 ⑤年度当初に全職員に周知徹底できるように、学校独自の安全点検実施計画と点検簿の作成をし、実施することができた。 ⑥年度当初に全職員に配付し、周知徹底することができた。危機管理対応マニュアルを作成した。 ⑦校内美化状況は、アンケートでは、保護者・生徒・職員ともに、昨年度より良くなっている。 ⑧若手教員チームの研修や、各種研修会を実施した。 総合的に見て、「入学させて良かった」と回答した保護者が増加した。(8 6 % → 9 0 %)	①②学習サポートボランティアの学生との事前打ち合わせ等を充分に行い、職員とのコミュニケーションを図れるようにしていく。 ③年度当初から早めに準備し、全中学校別のポスターの作成を目指す。 ④HP については、学校発信の書類にQRコード等を登録してもらい、多くの方に見てもらえるようにする。 ⑤実施期日、実施方法、点検簿の見直し等を行い、効果的な方法を検討していく。 ⑥学校安全計画を見直し、より安全・安心な学校づくりを目指す。 ⑦今後も、美化週間の実施など、工夫をして校内美化に努める。 ⑧意見交換できる研修や開放講座・行事の企画等、さまざまな場面で、若手が活躍できる場を設定し、先輩教員がアドバイスできる体制を整える。
学習指導	①学び直しの授業は、学習に役立っていると答えた生徒は 8 7 % であった。 マナトレ認定テストは、昨年度より実施時期が遅かったため、テスト結果が到着していないが、昨年度並みの合格者であると思われる。 前期・後期で、週 2 日、各日 5 名、計 2 0 名の大学生の学習サポートボランティアが学び直しの授業に参加した。 ③7 回実施し、連続 7 回満点者は 2 0 名(昨年度は 1 6 名)、1 回だけ 1 9 点だった者は 1 9 名(1 0 名) であった。 ④生徒アンケートでは、スタディーサポートは効果的であると答えた。(8 1 % → 8 6 %) 2 学期末欠点保有者の割合：全学年(3 4 % → 2 8 %)、1 学年(3 6 % → 2 6 %) ⑤校内授業研修週間を 2 回実施した。授業公開では、若手職員が積極的に研究授業を行った。 アンケートでは、「指導方法や指導内容を工夫し、わかる授業・楽しい授業に努めている」と答えた教員が昨年度同様 9 8 % であった。 ⑥生徒による授業評価は全科目、全職員で実施した。 集計結果では、1 学期末では、授業に対する興味度が 8 6 % 、理解度が 8 8 % 。2 学期末では、興味度が 8 5 % 、理解度が 8 8 % という結果であった。	①学び直しの授業を、今後も継続して行い、基礎・基本の充実を徹底する。 ②今後も学習サポートに入ってもらうために、職員との打合せを充分に行えるように計画していく。 ③目標をきちんと持たせることで、継続した努力をすることを徹底させる。 ④スタディーサポートを引き続き継続しながら、教員の意識を高めることにより、よりきめ細やかな指導を行う体制を整える。 ⑤公開研究会を引き続き計画し、生徒の実態に即した、楽しくわかる授業を目指し、さまざまな意見を取り入れてより一層の授業研修の充実を図る。 ⑥評価結果を授業改善に生かすとともに、HP への掲載等も考慮しながら、質問事項・実施方法・集計方法等について継続的に検討する。
生徒指導	①②定期指導を 7 回実施した。再指導日には直してくる生徒が多くなった。 ③遅刻者数減少に向けて、掲示物の作成等を行い、全職員間の意思疎通を図った。遅刻率：全学年 1 ～ 2 学期末まで(1 0 . 8 % → 8 . 5 %) 1 学年 1 ～ 2 学期末まで(1 0 . 7 % → 7 . 4 %) ④今までの指導に加え、保護者会との連携した登校指導を 2 回実施した。 ⑤⑥ 1 ・ 2 学期に生徒面談を行い、一人ひとりの生徒との会話を大切にするとともに、いじめ・セクハラアンケートを実施した。その結果をもとに個別に面談を行い、希望者にはスクールカウンセラーとの面談を実施した。 ⑦部活動有志・生徒会を中心に、2 学期に地域の美化活動を実施することができた。地域の方々から感謝の言葉をいただいた。	①②保護者の理解を得ながら、引き続き再登校指導も含めた指導を継続していくとともに、生徒の自律的行動を促す指導を工夫する。 ③集計を月単位とし、翌月より早朝登校指導を行っている。より効果的な方法を検討する。 ④教員とともに保護者会が連携した登校指導は、効果があつたと思われるので、次年度以降も計画的に行うことを検討する。 ⑤⑥定期的なアンケートの実施や面談を通して、一人ひとりの生徒の把握に努め、その情報を共有し教職員が一体となったきめ細やかな指導を継続的に行う。 ⑦実施時期・方法等を再度検討し、回数を増加していく。
キャリア教育・道德教育	①保育園、介護福祉施設、消防署等、1 0 事業所で、1 3 名が参加した。(昨年 は 6 事業所、1 0 名) 参加した生徒は、意欲的な態度で取り組んでいた。 ②授業や進路指導と連動して資格取得を推奨している。1 年生の受検数が多くなっている。今年度実施検定数は 4 種目実施した。 ③⑤キャリア教育の一環として、本校生徒に必要なと思われるソーシャルスキルトレーニングを 1 ・ 2 年生に実施した。外部講師によるプログラムも実施した。 ④授業研修会では、グループワークを活用した道德の授業など、職員が各自で工夫を凝らしており、生徒が積極的に参加しているという意見が得られた。 ⑥学年単位での説明会等を実施するとともに、年間で計画的に実施した。 ⑦キャリア教育支援コーディネーターを講師とした進路講演会を実施した。本校生徒の実態を把握している講師なので、生徒にも理解しやすい講話であった。スクールソーシャルワーカーには、生徒相談や外部施設などとの連絡・調整役を引き受けてもらっている。	① 受入事業所の拡大を図る。参加者への事前指導を充実し、生徒自ら行動できるなど、さらに実りあるものにする。来年度の 2 年生は全員参加予定である。 ②現在実施している資格試験を、より多くの生徒が取得を目指すように、学校全体で奨励していくとともに、引き続き新たな資格取得について検討していく。 ③⑤キャリア教育の内容を指導計画に取り込むとともに、評価規準と基準を作成し、指導と評価の一体化を目指した取り組みを行う。また、今年度実施したソーシャルスキルトレーニングを検証し、次年度に向けて継続的な実施の検討をする。 ④キャリア教育の一環として年間計画を組み、実践研究及び研修会を実施する。また、資料の内容を精査し、生徒に合った資料を充実させ、学校全体で効果的な活用を進める。 ⑥段階的・効果的な指導計画に基づき、外部機関との連携をさらに緊密にし、早期の個別指導ができるように努める。 ⑦今年度実施できなかった S S W を活用した研修会を次年度は検討していきたい。
特別活動	①本年度は、陸上競技部の男子が関東大会に出場した。他の運動系部活動・文化系部活動ともに積極的に活動し、成果を出している。 ② 3 月の入学許可候補者説明会・入学後の部活動紹介・夏休みの 1 日体験入学などで紹介の映像や、部員が協力している姿を見てもらい、部活動加入を推進できた。 ③市内中学校との合同練習会や大会会場として本校を開放し、生徒・職員ともに中学校との連携を図ることができた。 ④検討委員会を立ち上げ、評価方法を検討した。	①部活動を意欲的に活動している生徒に対しての、学校全体での応援・支援体制をより充実させる。 ②学校全体が活性化するための起爆剤となるよう、部活動人数を確保するとともに、指導方法や指導内容について情報交換できる体制を整える。 ③中学校への広報活動や交流活動を奨励し、部活動加入率の向上を図るとともに、充実した指導体制を整える。 ④委員会から、評価方法等の提案がなされた。今後、職員会議で審議していく。

※ ○ % → △ % ○は平成 2 6 年度、△は平成 2 7 年度の割合である。

(3 号様式－ 2)	
学校評価の公表について (手段・時期・内容等)	3 月 1 1 日、ホームページを更新し、学校評価を公表する。

領域	学 校 関 係 者 評 価 の 結 果	学 校 評 価 の ま と め (課題と次年度に向けた改善方策)
学 校 経 営	①②③保護者の地域連携アクティブスクールに関する理解度が高いことは良いことだと思う。 中学校を5 8 校回り、広報活動に尽力している結果だと思われる。 保護者アンケートの「入学させて良かった」が9 0 %に注目した。取り組んできた成果が表れているのではないかな。 ○その他の項目は自己評価のとおりであった。	①②③アクティブスクール部を中心として、学び直し・学習サポートボランティア・インターンシップ・ボランティア活動と、新しい試みを計画、実施してきた。今年度の反省を踏まえて、次年度のよりよい体制作りを検討する。 ④ＨＰは充実してきている。情報発信の方法を工夫する。ＱＲコード等を登録してもらい、常に見てもらえるように発信していく。 ⑤⑥学校安全計画を見直し、より安全・安心な学校づくりを目指す。 ⑦校内美化は改善されてきている。次年度は、さらに改善できるように検討していく。 ⑧職員の意識と自覚を高めるとともに、職員研修を充実させていく。
学 習 指 導	① 学び直しは、多数が「よくわかる」という回答。このまま進めていってほしい。 「学び直し」とはいつでも、小学校からでは易し過ぎ、進むのが遅すぎるという声も上がっているのではないかな。しかし、「ＳＰＩ対策だよ。」と言いつ方を変えると、生徒も興味を持ってくるのではないかなと思われる。 生徒の意欲はどのように向上させたのか、知りたい。 生徒の「入学して良かった」率が向上していることは、「学校が好き」ということ。このことは、学習意欲向上に結びつく。 ○その他の項目は自己評価のとおりであった。	① 1 年生に対してのＣＢ１（キャリアベーシック１）の実施方法を検討していく。2・3 年生については、マナトレを継続し、基礎学力の定着を図る。 ②今年度、初めて実施したことで、成果は上がっている。教員との打合せを充分に行い、計画的に進めていく。 ③常用漢字テストに対して目標をきちんと持たせることで、継続した努力をすることを徹底させる。 ④スタディーサポートを引き続き継続しながら、教員の意識を高めることにより、よりきめ細やかな指導を行う体制を整える。 ⑤⑥公開研究会を含め、授業公開の機会を確保するとともに、校内授業研究を積極的に行い、職員の授業力を高める。授業評価を全職員が実施し、結果を授業改善に生かすとともに、ＨＰに掲載する。
生 徒 指 導	⑤文化祭を見に来た時、先生と生徒の信頼関係が築けていると感じた。 地元ではどうしても過去の悪いイメージが根付いているが、最近の様子は、本当に良い方に変わった。けんかなど、小さなトラブルでも、最近は大人が絡むことが多い。担任だけでなく、学年、指導部、学校全体で取り組む姿勢が必要とされている。 ○その他の項目は自己評価のとおりであった。	①②保護者の理解のもと、協力体制を構築し、再登校指導など厳しい指導を継続する。 ③遅刻指導について、生活習慣の見直しという部分まで踏み込んだ指導を行う。遅刻指導についてより効果的な方法を検討し、指導の徹底を図る。 ④登下校マナー指導について、保護者会と連携しながら実施時期・巡回コースを再検討し、より効果的な指導を行う。 ⑤⑥日常的な生徒観察・面談を通して、一人ひとりの生徒の把握に努め、情報を共有し、きめ細やかな指導を心がける。 生徒相談員及び生徒相談窓口を周知し、相談しやすい体制作りにも努める。情報の共有（定期的なスクールカウンセラーと相談員の打合せ）。 ⑦自治会・社会福祉協議会等と密に連携し、計画する。
キ ャ リ ア 教 育 ・ 道 徳	①地域の教育力を活用してほしい。地元の企業や施設などでの就業体験や、地域の祭やイベント参加、ボランティア参加など、地域とともに取り組んでほしい。 ○その他の項目は自己評価のとおりであった。	①参加希望者と受入事業所の拡大を図る。参加者への事前指導を徹底し、高い意識で臨めるようにする。 ②現在実施している検定を、より多くの生徒が資格取得を目指すように、学校全体で奨励していく。 ③教職員全員の共通理解の下、「キャリア教育の充実」を確実に図り、公開研究会の実施などを通じて、生徒の主体的な社会参画を目指す本校の姿を内外にアピールする。 ④キャリア教育の一環として、道徳教育も年間計画に入れ、実施する。道徳授業の実践研究及び研修会を実施する。 ⑤外部講師のソーシャルスキルトレーニングを、年間計画に入れ、計画的に実施していく。 ⑥段階的・効果的な指導計画に基づき、外部機関との連携をさらに緊密にし、早期の個別対応ができるよう努める。 ⑦今年度実施できなかったＳＳＷの研修会を、計画的に実施できるようにする。
特 別 活 動	①③文化祭の時の、吹奏楽部と野球部のパフォーマンス、古和釜小・古和釜中との吹奏楽部のコラボレーションはとても良かった。地域の方々が見に来ていた。 ○その他の項目は自己評価のとおりであった。	①部活動を意欲的に活動している生徒に対しての学校全体での応援・支援体制をより充実させる。 ②学校全体が活性化するための起爆剤となるよう、部活人数を確保するとともに指導方法や指導内容について情報交換できる体制を整える。 ③中学校への広報活動や交流活動を奨励し、部活動加入率の向上を図るとともに、充実した指導体制を整える。 ④委員会から、評価方法の提案がなされ、今後職員会議で審議していく。